

# 世界名作劇場グランプリ！！

プレイ人数：2～6人 プレイ時間：15～30分 対象年齢：6歳以上  
用意するもの：広めのテーブル、得点記録用の何か（1人あたり30点程度）、想像力



「お父さん、お母さん、今日も『○○○○○』読んでえ！」

「むかーしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました——」  
お決まりの語り出しにワクワクしながら、気が付けば深く枕に顔を埋めていた、あの懐かしい夜……  
子どもはやがて大人となり、聞き手はやがて伝え手となります。  
そうして永い時間をかけて、人々は物語を紡ぐ一本の糸となるのです……

……といえば聞こえはいいですが、大人だって人間です。  
ぶっちゃけ何度も同じ話をするのは、飽きます。アレンジの一つも加えたくなるものです。

「ブレーメンの音楽隊」の仲間が「ピノキオ」「親指姫」「ピーターパン」でも——  
「シンデレラ」が「マッコナ」「甘えん坊の」「長靴を履いた」「パトラッシュ」でも——  
「人魚姫」が「お菓子の家を見つけた」のちに「毒リンゴを食べてしまった」としても——  
いいじゃないか！お話が楽しかったならっ！！

——このゲームは、常に新しい物語を求める子供たちと、  
子どもの期待を裏切れない不憫（ふびん）な大人達に贈る  
一大エンターテインメントです。

……そういうことにしておいてください。



※以下の2つのゲームは、ルールが全く同じで、カード構成だけが違います。

- ・「全日本昔話選手権！！」（通称：にほん編）
- ・「世界名作劇場グランプリ！！」（通称：せかい編）

## ◎ゲームの簡単な説明

プレイヤー全員でお話を作っていきます。  
ただし、プレイヤーはお話を「ハッピーエンド」に向かわせる組と「バッドエンド」に向かわせる組の二手に分かれていきます。

さらに、それぞれが個別の目的を持っています。  
お話が完成したら、プレイヤーは達成できた目的に応じて得点をもらえます。  
3ラウンドプレイして、獲得した得点が一番多いプレイヤーの勝利となります。

……ということになっています。建前上は。  
本当の勝利条件は、「このゲームを楽しむこと」です。  
点数による勝ち負けはこの次にして、楽しめたプレイヤー全員の勝利となります。

## ◎内容物

カード111枚（大サイズ：1枚、小サイズ：110枚）  
※得点を記録するためのもの（紙とペン、チップ・おはじき、等）を用意してください。

## ◎カードの紹介

カードは【物語カード】【登場人物カード】【得点カード】の3種類に分かれています。  
各カードの右上には、バージョンを示すアイコン（「世界名作劇場グランプリ！！」の場合は、地球の水色のアイコン）が描かれています。

また、一部のカードの右下には、黄色いアイコン（得点アイコン）が描かれています。【得点カード】で得点を獲得できる条件に関するアイコンです。（各アイコンについては、3ページの図を参照してください。）

### 【物語カード】47枚

上下に色がついているカードです。

【物語カード】には、『スタートカード』『ノーマルカード』『ハッピーエンドカード』『バッドエンドカード』『転換カード』『終了カード』の6種類があります。

なお、【物語カード】に主語が書かれていない場合、主人公が主語になります。

#### ◆『スタートカード』1枚

1枚だけ大きいサイズのカードです。このカードを起点として、お話（ラウンド）を作っていきます。

#### ◆『ノーマルカード』16枚

上下に青い色がついているカードです。お話を進めるためのカードです。

#### ◆『ハッピーエンドカード』8枚

上下の左半分に青い色が、右半分にピンク色がついており、さらに左上と背景に青いマル印がついているカードです。お話をハッピーエンドで終わらせるために必要なカードです。

#### ◆『バッドエンドカード』8枚

上下の左半分にピンク色が、右半分に青い色がついており、さらに左上と背景に赤いバツ印がついているカードです。お話をバッドエンドで終わらせるために必要なカードです。

#### ◆『転換カード』8枚

上にピンク色が、下に青い色がついており、背景に爆発マークが入っているカードです。お話の流れを大きく変えるためのカードです。

#### ◆『終了カード』6枚

上にピンク色が、下に紫色がついており、下側に「THE END」と書かれているカードです。お話（ラウンド）を終わらせるためのカードです。

## 【登場人物カード】 36枚

左右に黄色い色がついているカードです。  
登場人物カードには、『固有名詞カード』『一般名詞カード』『修飾カード』の3種類があります。

- ◆『固有名詞カード』9枚  
カードの右側にオレンジ色の人の絵がついているカードです。実際の昔話の登場人物の名前が書かれています。
- ◆『一般名詞カード』9枚  
カードの左側に緑色の人の絵がついているカードです。
- ◆『修飾カード』18枚  
カードの左右が黄色い色だけになっているカードです。

## 【得点カード】 28枚

周囲をオレンジ色で囲まれ、左上に数字が書いてあるカードです。  
目的カードには、『派閥カード』と『目的カード』の2種類があります。

- ◆『派閥カード』8枚  
オレンジ色の枠の中に線が入っているカードです。ハッピーエンド派（背景に青いマル印がついています）とバッドエンド派（背景に赤いバツ印がついています）の2種類があります。
- ◆『目的カード』20枚  
オレンジ色の枠の中に線が入っていないカードです。

**【物語カード】：カード上下に色がついています**

バージョンアイコン

登場キャラ  
（【登場人物カード】で  
修飾できます）

得点アイコン

※『スタートカード』  
（大きいカード）も  
【物語カード】です。

主人公

**【登場人物カード】：カード左右に色がついています**

きん  
たろう

『固有名詞  
カード』

お婆さん

『一般名詞  
カード』

可  
愛  
ら  
し  
い  
に

『修飾  
カード』

バージョンアイコン：2種類

- にほん編  
（全日本昔話選手権！！）
- せかい編  
（世界名作劇場グランプリ！！）

登場人物アイコン：4種類

- 男性
- 女性
- 動物
- 妖怪（怪物）

得点アイコン：6種類  
（アイコンの意味は対応する  
目的カードを参照してください）

5

『派閥カード』  
（ハッピー  
エンド派）

5

『派閥カード』  
（バッド  
エンド派）

2

『目的カード』

※全て「にほん編」のカードを例にしています。

## ◎「ラウンド」とスタートプレイヤーの決め方

1本のお話を作るための流れを「ラウンド」と呼びます。3ラウンド行って一番得点が高かった人の勝利となります。

各ラウンドを始める前に、そのラウンドのスタートプレイヤーを決めます。最初のラウンドのスタートプレイヤーはじゃんけん等で決めてください。（あるいは、「最近、子どもに物語を読んで聞かせた人」をスタートプレイヤーにしてもかまいません。）第2ラウンド以降は、前のラウンドで終了カードを出したプレイヤーの左隣のプレイヤーか、または山札が尽きた時の手番プレイヤーが、新たなスタートプレイヤーになります。

## ◎ラウンドの準備

### 1. スタートカードの準備

『スタートカード』をテーブルの端に置きます。『スタートカード』の下にカードを並べるためのスペースを十分確保してください。（6ページ目の図を参照してください。）

### 2. 山札の準備

残りの全てのカードを【物語カード】【登場人物カード】【得点カード】に分けます。

【得点カード】はいったん横にどけておきます。

【物語カード】をよく混ぜて、裏向きでテーブル（全員の手が届き、かつ物語を作るうえで邪魔にならない場所）に置き、物語カードの山札を作ります。

【登場人物カード】も同様にして、登場人物カードの山札を作ります。

そして、それぞれの山札の一番上のカードを表向きにして、それぞれの山札の横に置きます。（どちらがどちらの山札かをわかりやすくするためです。この2枚のカードは、このラウンドでは使用しません。）

### 3. 派閥カードの配布

【得点カード】のうち、『派閥カード』から、プレイヤー人数に応じて以下の枚数を抜き出し、シャッフルして各プレイヤーに裏向きで1枚ずつ配ります。配られたカードは、他のプレイヤーにどちらの派閥かを見られないように注意して、オモテ面を確認した上で自分の前に裏向きで置いておいてください。

2人プレイ時	ハッピーエンド派、バッドエンド派 各1枚
3～4人プレイ時	ハッピーエンド派、バッドエンド派 各2枚
5～6人プレイ時	ハッピーエンド派、バッドエンド派 各3枚

残ったカード（使わなかった派閥カードと、プレイヤー人数が奇数だったときに余ったカード）は、裏向きのまま脇にどけておきます。（このラウンドでは使用しません。）

※なお、「プレイヤー人数が奇数だったときに余ったカード」のオモテ面は、ラウンドが終わるまで見ないでください。どちらの派閥が多いかは、ラウンドが終わるまでナイショです。

### 4. 目的カードの配布

【得点カード】のうち、『目的カード』を全て裏向きでシャッフルして、各プレイヤーに3枚ずつ配ります。配られたカードは、『派閥カード』と同様、他のプレイヤーに何が書いてあるかを見られないように注意して、オモテ面を確認した上で自分の前に裏向きで置いておいてください。

残ったカードは、裏向きのまま脇にどけておきます。（このラウンドでは使用しません。）

### 5. 手札の準備

各プレイヤーに、【物語カード】の山札から3枚、【登場人物カード】の山札から3枚を裏向きで配ります。配られたカードは、他のプレイヤーに何が書いてあるかを見られないように注意して、手札として持ちます。

### 6. 主人公の決定

【登場人物カード】の山札から、『固有名詞カード』か『一般名詞カード』が出るまでカードをめくりまわります。出たカードをスタートカードの横に、人の絵がつながるように置きます。それ以外のめくられたカードは、裏向きにしてシャッフルして、【登場人物カード】の山札の一番下に戻します。



## ◎ゲームの終了

3ラウンド目が終了したら、各プレイヤーは獲得した得点を比べます。合計得点が一番高いプレイヤーが勝利します。同点の場合は、それらのプレイヤーは同じ順位となります。

## ◎オプションルール

以下のルールを好みに応じて追加してもかまいません。

### 《派閥を完全にランダムにする》

派閥を決める際に、プレイヤー人数に応じた枚数の『派閥カード』を抜き出すのではなく、全ての『派閥カード』（各4枚、全8枚）から1枚ずつ配ります。これにより、各派閥の人数が大きく変わり、プレイヤーが4人以下の場合には全プレイヤーが同じ派閥になることもあります。

### 《人数が少ない派閥へのボーナス》

人数が少ない派閥が『派閥カード』の得点条件を達成した場合、ボーナスとして、その派閥の全員が、人数差（多い派閥の人数から少ない派閥の人数を引いた数）の得点を獲得します。派閥の人数が同数だった場合や、人数が多い派閥が『派閥カード』の得点条件を達成した場合には、このボーナスはありません。

### 《【登場人物カード】の制限をなくす》

「同じ列に『固有名詞カード』と『一般名詞カード』はそれぞれ1枚ずつしか置けない」というルールと、「オレンジ色の部分がない【物語カード】の列には【登場人物カード】を置けない」というルールをなくし、【登場人物カード】をどの列にも何枚でも置けるようになります。得点を得やすくなりますが、登場人物が矛盾しやすくなりますので、元のルールでは置けなかった置き方をする場合には、「なぜそうなるのか」を説明してください。オレンジ色でない部分を修飾してもかまいませんし、【物語カード】に書かれていないキャラを登場させてもかまいません。こじつけでもかまいません。

### 《他のカードセットを混ぜる》

複数のカードセットを混ぜて遊ぶこともできます。「全日本昔話選手権！！」を2セット以上混ぜてもいいですし、「全日本昔話選手権！！」と「世界名作劇場グランプリ！！」を混ぜてもかまいません。今後、同じルールの他のバージョンが出た場合、それらを混ぜて遊んでもかまいません。カードの裏面が違いますが、混ぜても大丈夫です。

複数のカードセットを混ぜる場合、単純に全てのカードを使用してもいいですし、規定枚数になるようにカードを抜き出してもかまいません。ただし、後者の場合、達成できない『目的カード』がないように注意してください。

目安として、各カードセットには【物語カード】と【登場人物カード】を合わせて、「動物アイコン」のカードが10枚程度、「妖怪アイコン」のカードが7枚程度、各「物語アイコン」のカードが3枚ずつ入っています。「男性アイコン」「女性アイコン」の数は『目的カード』には影響しません。

### 《カードを追加する》

何も書いていない「ブランクカード」を持っている場合、そのカードに自分なりの物語や登場人物を書いてゲームに追加できます。いろいろ書けるように鉛筆など消せるもので書いてもかまいませんし、消えないようにボールペンなど消せないもので書いてもかまいません。どの種類のカードかわかるように、点線に沿って色を塗るか、カードの片隅にカードの種類を書いておくといいでしょう。得点アイコンも自由に追加してもかまいません。

追加したいカードがたくさん出てきたら……？ そんな場合は、ぜひトロイホースに教えてください。ひょっとしたら、あなたが作った新バージョンが出るかもしれません。「ラブコメ編」「SF編」「ホラー編」「日本史編」「世界史編」「ファンタジー編」「クトゥルフ編」「昭和アニメ編」「平成アニメ編」etc... アイデアは探せばいっぱい出てきますよ。

## ◎最後に（究極のルール）

……とまあ、細々としたルールをつらつらと並べてきた次第ですが、ぶっちゃけ、ルールとかどうでもいいんです、ハイ（笑）

楽しければ、それでいいんです。

「むか～しむかし、あるところにおじいさんがいました、『とさ』

「Σ 終わるんかいっ!？」

でも、いいんです。

バカ話が盛り上がり、プレイした5分なり10分なりで、一度でも笑っていただければ本望です。

そんな具合で、究極のルールでは、カードの出し方など細かいことはいちいち気にしません。どのカードの下にも、また横にも、さらには上にも（列に割り込む形でも）、斜めにだって（？）、好きなカードを出していいんです。

キャラにいっぱいカードをつけて、「シンドバッド」であり「白雪姫」でもある主人公が「人魚」で「猫」な「妖精」でも、いいんです。

そして、得点なんてどうでもいいんです。流れで出した手札が一番笑わせた人が勝ちです。盛り上がりれば、全員が勝者です。

果たしてそれをゲームと言ってイイのかというツツコミは、甘んじて却下させていただきます。ご了承ください。

まあまあ「オイちょっと聞いてくれよこんなバカなゲームがあつてさ」的な感じで、コミュニケーションツールとしての立ち位置をいただけただなら、これ幸いです。

ホントーに最後に――

――お手に取っていただき、本当にありがとうございました！！

### 世界名作劇場グランプリ！！

初版：ゲームマーケット 2014 秋

誤記修正版：コミックマーケット 87

【ゲームデザイン】 丁

e-mail: t\_gerogero@hotmail.co.jp

【グラフィックデザイン】 K.K

【デベロップメント】 Morris

URL: <http://www.xanalith.net>

【製作・頒布】 トロイホース

URL: [http://homepage2.nifty.com/troy\\_horse/](http://homepage2.nifty.com/troy_horse/)

mixi コミュニティ: 「非電源同人ゲーム トロイホース」

